

1. スタッフ紹介（三方 裕司 助教授）

ついにこのスタッフ紹介のコーナーにセンター専任教官が登場することになりました。

トップバッターはこの私、三方裕司がつとめさせていただきます。宜しくお願い致します。

私は学部・大学院教育では理学部化学科・理学研究科化学専攻を兼担しており、他の学部専任あるいは大学院専任教官の先生方と全く同じように講義・実験などを担当しています。ですから、学生の側から見ると、センター専任の私が特別に他の教官と異なることは特にありませんし、こちら、センター専任である事を特に気にかけることもなく、日々学生達と楽しく過ごしています。

研究面ではセンターからいろいろなサポートを頂き、共生科学関連の新しいプロジェクトをスムーズに開始することができました。現在は糖分子の連結した金属錯体の開発、光合成活性中心あるいは酸化還元補酵素のモデル化、蛍光性金属イオンセンサーの開発などに取り組んでいます。

教育・研究に加えて、センター専任教官が3人しかいない現状でセンター関連のいろいろな役目をこなさなければならず、通常の業務に追われる中でまとまった時間を捻出するのに苦心する毎日です。しかし、センターに来たことによって勉強になったことはたくさんあります。研究発表や報告書を出す機会が増えたことは、自分の研究にとっていい刺激になりますし、また、センターを通じて知り合ったいろいろな方、特に文科系の先生方との交流はここにはないと実現しなかったのではないかと思います。大石センター長も、「共生とは、生物と生物から始まり、生物と自然環境、人と自然環境、さらには人と社会、人と人まで含めた全ての生命体と地球環境の共存を意味するものである。」と主張されています。分野の違う人たちによるいろいろな観点からの意見を頂けるセンターの存在は、私にとっても大切なものだと、これまでの活動を通じて思えるようになってきました。

共生科学研究センターが設立されてもうすぐ3年になるうとしていますが、その間、徐々に『共生』という言葉が新聞などで取り上げられるようになってきました。その概念はますます広がりを見せ、最近では地球という枠を超えて宇宙をも巻き込んできているようです。奈良女子大学共生科学研究センターもうかうかしてはいられません。我々の提唱する、奈良女子大学発の『共生科学 - KYOUSEI Science』を広く一般の方々に認知していただくために、微力ですがこれからも努力していきたいと思っています。



~ TOPICS ~

1. スタッフ紹介 第4回
「センター専任教官 三方 裕司 助教授」
2. 第3回共生科学研究センターシンポジウム
「人と地球の健康増進を目指す化学からのアプローチ」
3. 第7回紀伊半島シンポジウム
4. 外部評価
5. センターの活動状況
6. センターからのお知らせ 「ホテルと東吉野清流展」

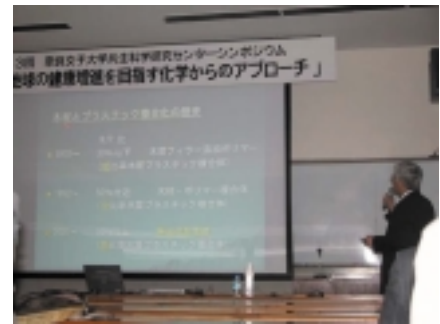
2. 第3回共生科学研究センターシンポジウム 「人と地球の健康増進を目指す化学からのアプローチ」

平成16年3月6日(土)に、第3回奈良女子大学共生科学研究センターシンポジウム『人と地球の健康増進を目指す化学からのアプローチ』が文学部南棟S218教室にて開催されました。学外から3名の講師を招き、講演は全て日本語で行われました。

久米奈良女子大学長の開会の挨拶のあと、「太陽紫外線による皮膚傷害 - 活性酸素の可視化と傷害防御法」と題して、京都薬科大学の桜井弘教授による紫外線から皮膚を守る方法に関する最近の研究成果についての講演がありました。マウスを用いた実験により、生きている動物の皮膚上での変化を測定するという画期的な方法が紹介されました。続いて本学共生科学研究センターの三方助教授から、「糖修飾による小分子の生理活性制御」に関する発表がありました。

休息後は「木質廃材処理法の新展開；押出成形木材の開発状況」と題して、近畿大学農学部岡本忠教授により木質プラスチックの最近の研究動向と将来展望が語られ、木材の長所とプラスチックの長所の両方を併せ持つ新素材について活発な質疑応答が繰り広げられました。続いて本学理学部化学科の阿部助教授は「金属錯体による人工光合成の開発 - 新規電極の作成 - 」について最新の研究成果を発表されました。最後の「水を反応場に用いる有機性廃棄物の資源・エネルギー化技術」と題した大阪府立大学大学院工学研究科の吉田弘之教授による講演では、『亜臨界水』によって有機物の分解反応が高効率・迅速に進行するという、ゴミ処理問題の解決と資源の再利用に向けた有望な最新技術が紹介され、活発な討論がなされました。

最後の大石共生科学研究センター長による総括では、それぞれの講演をまとめながら異分野交流・共同研究の重要性を指摘すると同時に、共生科学研究センターの化学系研究への熱い期待が語られ、シンポジウムは締めくくられました。今回は化学系のシンポジウムということで一般の方々の参加が大変少なく、また学部生の参加もほとんどなかったこともあり、参加者は約70名でしたが、化学を専門としない参加者からも、「非常にわかりやすく、おもしろかった。とてもためになった。」との感想が盛んに聞かれ、盛会のうちに幕を閉じました。



講演風景



シンポジウム案内ポスター



集合写真

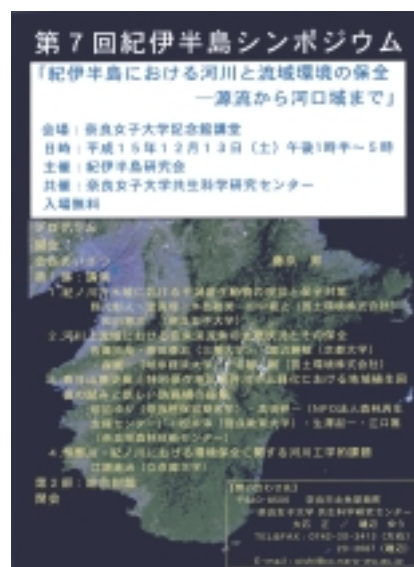
3. 第7回紀伊半島シンポジウム

「紀伊半島における河川と流域環境の保全 源流から河口域まで」

平成15年12月21日(土)に紀伊半島研究会と共生科学研究センターの共催により紀伊半島シンポジウム「紀伊半島における河川と流域環境の保全 源流から河口域まで」が開催されました。河川とその流域環境の保全に関して、大学の研究者、奈良県、NPO法人や環境関連企業の方による4題の講演がありました。参加者は、約130名でした。

野元彰人氏(国土環境株式会社)は、紀ノ川汽水域における干潟底生物の調査から、橋や河口堰を作成する際の保全対策、その後の調査結果に関して発表されました。環境保全に非常に成功した例として興味深いお話でした。佐藤拓哉氏は、「河川上流域における在来溪流魚の生息状況とその保全」と題して、遺伝学的視点から、在来溪流魚の生息数の調査とその保全対策に関して発表されました。前迫ゆり氏(奈良佐保短期大学)は、地域植生回復の試みと、新しい防鹿柵の提案に関して話されました。最後に、江頭進治氏(立命館大学)は、熊野川・紀ノ川における環境保全に関して、河川工学的な視点の重要性に関して発表されました。

河川とその流域環境の保全を行っていく場合、生態学的視点からの詳細な調査や、工学的視点の基礎的研究がいかに重要であるかが実感されました。また身近な話題だけに会場からも活発な討論がなされました。



シンポジウム案内ポスター

4. 外部評価

平成16年1月9日(金)に共生科学研究センター外部評価委員会が総合研究棟401号室にて開催されました。外部評価委員として、社団法人土壌環境センター専務理事の佐藤雄也先生、京都大学生態学研究センター長清水勇先生、総合地球環境学研究所中静透先生に御出席いただきました。

久米学長からのあいさつの後、外部評価委員会委員の先生方の紹介及びセンター側の列席者の紹介を行ないました。引き続き、大石センター長がセンター全体の概要の紹介を行い、センターの研究内容の紹介をグループ1(野外調査、観測と共生循環データベースの作成、共生循環モデルの構築 - 紀伊半島をモデル地域として -)に関して村松助教授が、グループ2(人工化学物質による錯乱機構の解明と循環可能な物質変換システムの研究・開発)に関して三方助教授が行い、センターの活動に関して古川教授が紹介しました。これら報告及び自己評価報告書等を参考にしながら評価委員の先生方からの質議に回答し、外部評価委員の先生方の協議を経て総括的な講評をいただきました。

総合評価としては、比較的少ない人員と限られた予算にも関わらず非常に高く評価できる活動をしている、と判断されました。紀伊半島という自然が豊富で歴史性が高い場所を材料とし、共生という形で切り込みを入れていく方向性は、現代の地球環境問題がクローズアップされている状況の中で非常に時期を得たよいテーマであると評価されました。しかしながら、より活発な活動のためにはセンター独自のスペースが少ない状況をできるだけ改善すべきであることが指摘されました。

研究活動に関しては、個々の研究者の研究活動について高く評価されました。共生科学の観点から研究内容を専門外の人にまで理解してもらえるようにさらなる工夫が必要である事及びセンターが主導し学内あるいは学外の研究者を組織した研究プロジェクトをもつべきである事が指摘されました。

社会活動としては、地域に根ざした科学技術体験学習の開催やシンポジウム・講演会の開催などを通して、研究成果の公表や情報の発信の場としての活動が高く評価されました。

今回の外部評価で、これまでの3年間のセンターの活動が非常に高く評価された事をうれしく感じました。また評価委員の先生方から有意義なコメントをたくさんいただきましたので、センターの運営や研究活動に関して改善すべき点は改善し、共生科学という概念を明確に打ち出していけるよう努力していきたいと思えます。



センターの活動紹介



質疑応答および講評

5. センターの活動状況（平成15年度）

平成15年6月3日
平城東中学1年生の総合学習による生物科学科標本室の見学

平成15年6月28日～29日
宝山寺福祉事業団、平城児童センターの児童によるセンター分室の見学、河川生物実習
センター分室にて

平成15年7月4日～5日
第10回日本光生物学協会講演会および日本光生物学協会公開シンポジウム「女性研究者による光生物学」
本学記念館にて

平成15年7月27日
大石センター長講演 奈良高等師範学校・奈良女子大学同総会「佐保会」総会後の懇親会
奈良ホテルにて

平成15年5月24日～25日
中・高校生向け野外体験実習「源流東吉野村の森林と生物」
東吉野村共生科学研究センター分室にて

平成15年9月19日
地域貢献事業：奈良県異業種交流促進協議会に参加

平成15年10月25日～26日
地域貢献事業：小学生、中学生を対象とした実習「源流東吉野村の森林と生物」

平成15年10月9日
地域貢献事業：さあ見学、産研学交流会（森林技術センター）に参加

平成15年11月14日～15日
地域貢献事業：鳥獣害対策検討会（農業技術センター主催）に参加

平成15年12月2日～6日
韓国プサン大学で日・韓・仏共同河川水質調査打ち合わせ

平成15年12月3日
第7回紀伊半島シンポジウム共催
奈良女子大学記念館にて

平成16年1月9日
共生科学研究センター外部評価委員会

平成16年2月1日
講習会の共催：Corona 衛星写真の判読
総合研究棟303号室にて

平成16年3月6日
第3回共生科学研究センターシンポジウム主催
「人と地球の健康促進を目指す化学からのアプローチ」

平成16年3月9日
地域貢献事業：奈良女子大学第1回研究フォーラム「森林の保全と木材循環利用」に参加

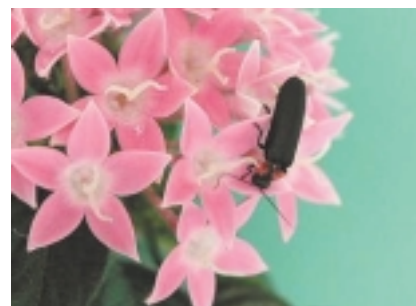
平成16年3月10日
講習会の共催：LANDSAT 衛星に搭載されたTM センサーデータの画像処理

平成16年3月26日
アジア・オセアニア比較内分泌学会議サテライトシンポジウムの共催
「地球環境と比較内分泌学：アジアの女性科学者の貢献」

6. センターからのお知らせ「ホタルと東吉野清流展」

平成16年6月24日～30日、京阪百貨店（守口店）7階ギャラリーコーナーにて、AQUA 工房企画による「ホタルの里東吉野清流展」が開催されます。“都会の子供達に本当のホタルを見せたい”という思いでホタルの養殖が行われ、養殖に必要なないオスだけが展示されます。また、大石センター長による特別セミナー「清流に棲む水生昆虫や魚類と山の自然」や、東吉野村の特産物の展示即売会を行います。是非御参加下さい。

問い合わせ先：AQUA 工房（072-887-0701）



ゲンジボタル

【画像提供「里山ホタル」】

編集後記

KSC（共生科学研究センター）ニュースレターも第4号となりました。センターが設立されてから早いものでちょうど3年が経ち、本号では、外部評価委員会の報告と紀伊半島シンポジウムの報告、センターシンポジウムの速報をお届けしました。

年2回の発行も軌道にのり、センターの活動をわかりやすく皆様にお知らせするというニュースレターの役割を果たすべく、読みやすく親しみやすい紙面づくりを心がけて参りましたが、今回の出来は如何でしたでしょうか。ニュースレターに関してご意見等ございましたら、編集委員までご連絡下さい。

第1号より編集に携わらせて頂きました。私事では

ございますが、非常勤研究員の任期が終了し私にとって、本号が最後の仕事となりました。短い間ではございましたが、ありがとうございました。今後も、更なる御愛読の程、宜しくお願い致します。（佐々）

制作発行 奈良女子大学共生科学研究センター
編集者 村松 加奈子 三方 裕司
佐々 尚美
連絡先 ☎630-8506 奈良市北魚屋西町
Tel & FAX 0742-20-3687
センター本部 E465室・466室（大学院E棟4階）
<http://www.nara-wu.ac.jp/kyousei/index.html>
e-mail: kyousei@cc.nara-wu.ac.jp